

教養医科学

科目責任者 吉田 謙一郎
学年・学期 1 学年・1 学期

一
学
年

I. 前 文

医師を目指す諸君には、なぜ自分が医師になろうとしたのかという原点を常に意識し、社会に尊敬される良き臨床医、医学者になることを自覚するとともに、医学を学ぶことへの関心を高めてほしい。教養医科学では、そのための導入部として各領域における専門家が講師となるが、本講義において医学生として社会の一員としてのマナーを身につけ、建学の理念である人間性豊かな医師並びに医学者を目指すとともに、グローバルな社会に対応するための国際感覚も養ってほしい。

II. 担当教員

学 長	吉 田 謙一郎
特任教授	寺 野 彰
特任教授	満 屋 裕 明 (国立国際医療研究センター研究所)
特任教授	鈴 木 利 廣 (すずかけ法律事務所)
特任教授	福 田 富 一 (栃木県知事)
特任教授	鈴 木 康 裕 (厚生労働省)
特任教授	二 川 一 男
特任教授	千 種 雄 一
非常勤講師	岩 畔 英 樹 (医療法人再生会そばじまクリニック)
	大 谷 昭 宏 (ジャーナリスト)
	高 橋 祥 友 (平沢記念病院)
教 授	山 口 重 樹 (麻酔科学)
教 授	杉 本 公 平 (埼玉医療センターリプロダクションセンター)
教 授	徳 本 直 彦 (埼玉医療センター移植センター)
准 教 授	稲 葉 未知世

III. 一般学習目標

1. 本学の歴史的背景を理解し、獨協人としての人間形成に努める。
2. 医療の対象としての人間理解、患者理解を深める。
3. 高度な医療技術と人間性豊かな医師を目指す決意を新たにす。
4. 先端医療の実態に触れ、今後のあり方を考える。

IV. 学修の到達目標

1. 医療における人間関係の重要性を学ぶ。
2. 医師たらんとする動機付けを明確にする。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業形式 (事前学習用動画等の教材を前もって配付する。原則として授業中に事前学習の内容に関する小テストを行い知識の確認を行う。))
- 2: ディスカッション 3: グループワーク 4: 実習 5: プレゼンテーション 6: その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
1	4	19	月	6	・ Introduction ・ 本学の国際交流／医療協力 ～フィリピンの日本住血吸虫症を通して～	吉 田 謙一郎 千 種 雄 一	
2		27	火	5	壬生の医療史	稲 葉 未知世	
3		30	金	4	命といのちの贈り物	徳 本 直 彦	
4	5	14	金	4	再生医療 ～お宝だった皮下脂肪～	岩 畔 英 樹	
5		20	木	4	医学・看護学の研究のススメ －AIDS治療薬の研究からCOVID-19治療法の開発へ－	満 屋 裕 明	
6		31	月	3	生殖医療倫理と意思決定支援	杉 本 公 平	
7	6	7	月	3	医学生，看護学生が知っておきたい自殺予防の基礎知識	高 橋 祥 友	
8		7	月	4	社会保障の現状と課題	二 川 一 男	
9		14	水	3	医師・看護師のプロフェッショナリズム	鈴 木 利 廣	
10		14	水	4	アメリカの医療	山 口 重 樹	
11		21	月	4	医学の歴史	寺 野 彰	
12		21	月	5	問われる「医」のあり方 ～生と死を見つめた取材から～	大 谷 昭 宏	
13		24	木	4	厚労省は新型コロナとかく戦えり	鈴 木 康 裕	
14		24	木	5	令和の時代を生き抜くために ～医療の道を目指す新入生へのメッセージ～	福 田 富 一	

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

出席状況・レポートにより評価する。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

特に指定しない。

VIII. 質問への対応方法

講義中や，講義前後で適宜質問を受け付ける。質問方法は各担当者の指示に従うこと。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	◎
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	○
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

原則として，成績評価のフィードバックは行わないが，態度不良，欠席が多い場合は注意を行った上で別途課題を課す場合がある。

XI. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

事前学修：講義テーマに関する事項を図書館等を活用して調べておく（30分）

事後学習：講義内容の振り返り（30分）

XII. コアカリ記号・番号

A-1-1) 医の倫理と生命倫理

A-2-2) 学修の在り方

A-8-1) 医学研究への志向の涵養

A-9-1) 生涯学習への準備